

新古今 歳時記

平成 28年1月

戦前の歳時記の様子を紹介した故林鼓浪の連載をもとに、昔懐かしい行事など、現在と比べながら、話題のイベントを紹介していきたい。

今月の歳時記は、2ヶ月先の新年の1月を紹介。一年間の感謝を捧げ、新年の平安無事を祈願する初詣にはじまり、商売繁盛の十日戎と、県内の主要な神社仏閣は大勢の人々で賑わう。



写真：大麻町の大麻比古神社の初詣

月	新暦・旧暦	雑節・祝日	祭・イベント	季節の風物詩
1 金	みずのえ 一白友引 うま	元旦 皇居一般参賀 下弦	1日 ひわさ冬まつり (美波町) 1日 歳旦祭 午前6時 (鳴門市大麻比古神社) 2日 灯りのオブジェ (神山町鬼籠野)	ゆきわたってむぎのふる 雪下出麦
2 土	みずのえ 二黒先負 ひつじ			
3 日	きのえ 三碧仏滅 さる			
4 月	きのと 四緑大安 とり	官庁ご用始め		りゅう座流星群極大日
5 火	ひのえ 五黄赤口 いぬ	小寒 しょうかん		芹乃栄 せりすなわちさかつ
6 水	ひのと 六白先勝 い	七草		
7 木	つちのえ 七赤友引 ね			
8 金	つちのと 八白先負 うし			
9 土	かのえ 九紫仏滅 とら			
10 日	かのと 一白赤口 う	成人の日 鏡開き 新月	10日 えびす祭 (徳島市通町) 10日 2/21日 うだつをいける 〜和美共感〜 (美馬市脇町)	しみずあたたかをふくむ 水泉動
11 月	みずのえ 二黒先勝 たつ			
12 火	みずのと 三碧友引 み			
13 水	きのえ 四緑先負 うま	三りんぼつ		

※掲載のイベント情報は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

昔

64年前の連載より

商家には新しい紺の暖簾がひときわ目立つて早朝から縁起を祝う打ち込み太鼓の響きがかしましくはやしたてると、もう礼者がまわってくる。

男子は紋付に仙台平、奥さんは普通の着物にしゆ珍の丸帯礼服で、ちゃんとした身なりがつやつやした丸まげに前差をさしたり、裾を長く引いていかにもゆかしい日本的な情緒があった。

最近になっての変わりようは門松であろつか。四、五十年の話をするのもおかしいが、大きな高いものになるとほとんど軒とすれすれ根巻や砂盛りが三尺から四尺と周囲に広がって、実にどうさしたものをよく見かけたが、今は歩いて見下すぐらい貧弱なものでアングラ話にならぬ。この門松について阿波で著名なのは、祖谷の伝説に元暦年間、平国盛が太枝という所で越年した時にヒノキを門松に変えたという。同じ祖谷でもカシを用いる所もあり、松だけに限っていない。

変わったのを二、三ひろってみると、那賀郡の日野谷では門にシイの木を立てる門シイがあり、面白いのは名西郡神領方面ではカシ

の木と栗の木を家屋の四方に立てる。これは九里四方貸回るという謎で随分欲の深い考え方をしたものだ。また農家では正月だけイロリの四隅に木をたいて、世継が良いともじったり、年頭に処しての俗信はダイダイが代々、ユズはイウイウ、モチは一家の円満細ナワをなつて細う長う繁盛を祈るという意味でそれぞれ正月に限られた特殊の表示である。

とりわけ恵方参りとか初参りと、神社でも人を集める祈念行事がある。その一例をあげると、板野郡のある方面で村の青年がつとめる弓祈禱がある。長男で未婚者、しかも両親が無事に揃っている人に限られる弓士の役に当たるとまず寒中に何日も水浴をして体を浄め、いよいよ当日の式場では十間ほどの距離をすえた的を射ると、この日見物している一村の人が盛んな声援をおくる。そして的の中に鬼という二字を書き現してあるのは、鬼畜を射払うという意味だといふ。

池田方面でもやはり射弓の式が正月三日に行われたそうだが、これは土器を射落とす百手という儀式で弓士にあたる役は年のゆかね少年が選ばれる。家では家族と火を別にし、神社内の家に寄

31 日	30 土	29 金	28 木	27 水	26 火	25 月	24 日	23 土	22 金	21 木	20 水	19 火	18 月	17 日	16 土	15 金	14 木
みずのえ 四緑先負 ね	かのと 三碧友引 い	かのえ 二黒先勝 いぬ	つちのと 一白赤口 とり	つちのえ 九紫大安 さる	ひのと 八白仏滅 ひつじ	ひのえ 七赤先負 うま	きのと 六白友引 み	きのえ 五黄先勝 たつ	みずのと 四緑赤口 う	みずのえ 三碧大安 とら	かのと 二黒仏滅 うし	かのえ 一白先負 ね	つちのと 九紫友引 い	つちのえ 八白先勝 いぬ	ひのと 七赤赤口 とり	ひのえ 六白大安 さる	きのと 五黄仏滅 ひつじ
旧 12.22	旧 12.21	旧 12.20	旧 12.19	旧 12.18	旧 12.17	旧 12.16	旧 12.15	旧 12.14	旧 12.13	旧 12.12	旧 12.11	旧 12.10	旧 12.9	旧 12.8	旧 12.7	旧 12.6	旧 12.5

文化財防火デー				三りんぼつ				大寒				土用				やぶ入り		小正月



土用とは
季節に五行（木・火・土・金・水）を割り当てた場合に、春は木、夏は火、秋に金、冬に水、もれた土は、季節の変わり目
18日間を土用という。



さわみずこおりつめる
水沢腹堅
スイセン咲く
初不動

ロウバイ咲く

ふきのはななく
欸冬華

きしはじめてなく
雉始雉

食して当日の弓役を勤めるとい
う話がかつて土地の人から聞い
たことがある。いつも正月が来る
たびに懐かしまれるのは、徳島市
北山路の天神さん社殿に、正月に
なると、書初に『松竹梅』『上乘天
晴』などと書いた額を奉納する
のが例になっていた。付近の人達
は勿論、遠方の人までがわざわざ
見物に押寄せたもので、当時とし
ては絵馬堂や拝殿が唯一の展覧会
場だった。それと境内にある梅の
木に思い事が叶うように、願い事
を書きしたためた紙片を結びつ
けたのが、お正月には枝頭に花が
咲いたようにたくさんつけられ
たもので、これは特に花街のねえ
さん達のしきたりで、しまいに
左の指で結びつけると念が達成
するなど遊戯化した。ゆうちょ
うな時代を振り返ってみると実
に四、五十年前の話。惜しいの
は勢見の金比羅さんの石段にあ
る石の鳥居に、正月になると新し
い大しめ縄がすくぶる人目をひ
き、四国と称されていた。正月
風景として確かに異彩を放って
いたことが懐かしくも偲ばれる。

昭和26年1月 徳島新聞連載
阿波歳時記 1月の巻より抜粋
著者…絵師・郷土芸能研究家
林鼓浪（1887～1995）



取材デザイン編集
上野昇（のちゃん）
四国大学
生活科学部講師

最近の新年は、「コンビニエンス
ストア」が年中無休で24時間オ
ープンしていたりと、正月の買い
物に困ることは殆どなくなった。
それに伴い、年末年始だからと皆
が斉に休暇を取ることも減って、
正月が商売のかきいれどきと働
く人も多くなったと見受けられ
る。いずれにしても、家族と初詣、
墓参り、そして新年の「あけまし
ておめでと〜ございます」の挨拶
は、今も変わらない正月の歳時記
として続いている。



写真：徳島市通町の事代主神社のえびす祭り

今

新年の月